

「地域に根ざし、世界に通用する」大学院を目指して、総合学術研究科が設置されています。

- 応用生命科学
- 生体機能制御学
- 食品資源科学
- 環境科学

県立広島大学・大学院総合学術研究科
生命システム科学専攻

専攻長 萩田 信二郎

自ら「意志」を磨け！

その「意志」は、本専攻の研究力を高めます

その「意志」は、自らのキャリアを切り拓きます

その「意志」こそが、研究生生活において極めて重要であると確信します。

生命システム科学専攻

Program in Biological System Sciences

博士課程前期・後期
Master's Course/Doctoral Course

庄原キャンパス
Shobara Campus

研究分野の構成

《博士課程前期・後期共通》

次の4分野から構成されています。

【応用生命科学】

生命科学領域を基盤として、タンパク質、糖、脂質や遺伝子などの生体分子レベルで生命を高度に探求し、細胞活動や生物機能を解明して、その成果の社会還元を図る教育研究分野

【生体機能制御学】

分子・細胞レベルでの生体の機能制御を高度に探究し、その解明を通して、先進医療技術や医薬・機能性食品開発などの健康科学領域を基礎・応用的に展開する教育研究分野

【食品資源科学】

生物の育種や生産技術、製造や流通までを高度に探究し、食品資源領域にかかわる生物機能を解明して、その有効利用を図るための教育研究分野

【環境科学】

生物圏における物質循環の把握、予測、予防のための科学技術を探求し、環境・資源計測システム等の構築に取り組むとともに、陸域・水圏などの環境・生態系の分析を通して、地球規模での修復・保全技術の開発などに取り組む教育研究分野

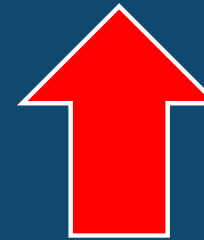
大学に大学院があることの意味

研究力

教育力

学位

スペシャリストの養成



県立広島大学
生命環境学部

4年間

2年間

共通科目・
専門基礎科目

2年間

卒業論文研究

大学院総合学術研究科
生命システム科学専攻

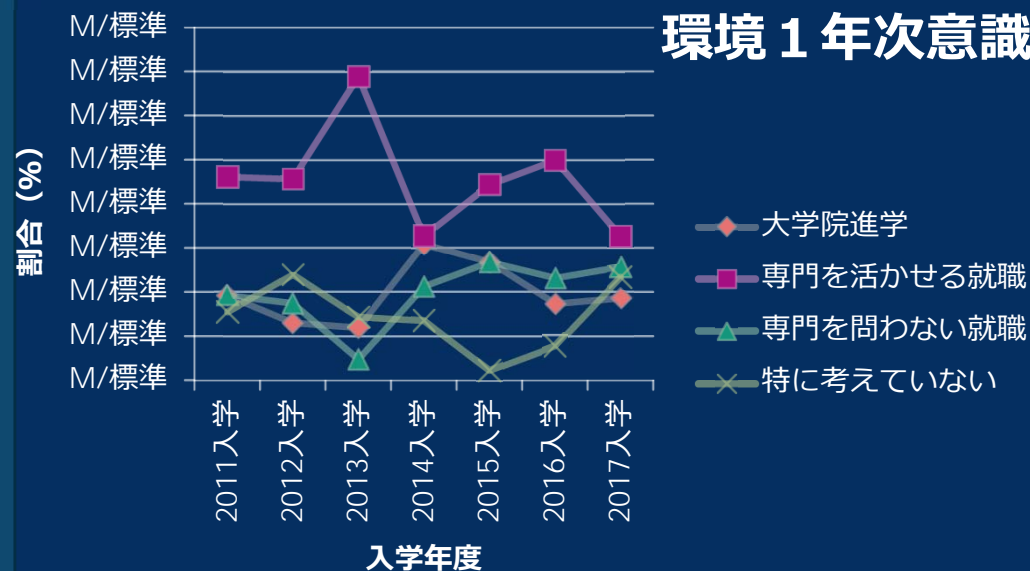
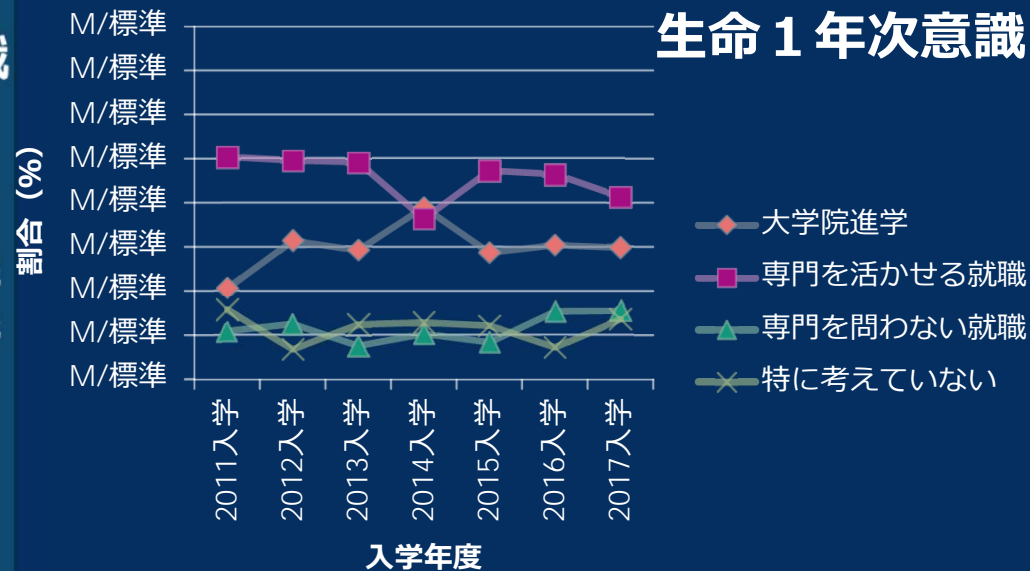
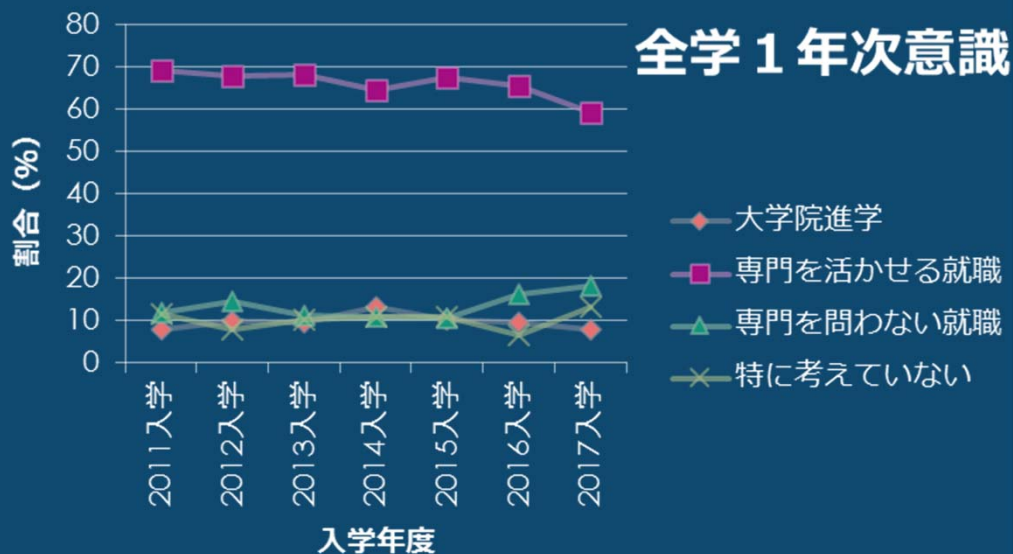
博士課程前期
(2年間)

博士課程後期
(3年間)



学士

「新入生意識調査」でわかること



庄原キャンパスは、専門性を強く意識し、かつ大学院進学を視野に入れている新入生が多い！

「大学院生へのQ&A」

- Q1 学部時代に 生命科学分野に思い描いたことは？
- Q2 院進学(志望)に際して 最も意識したことは？
- Q3 現在の研究のやりがいは？

「大学院生へのQ&A」

(1) 博士課程後期を修了した**岡本さん**の場合: 山下研究室

➤ Q1 学部時代に 生命科学分野に**思い描いた**ことは？

A1 研究分野にとらわれること無く、「**多様な知識**」を得ることができるのではないかと考えました。

➤ Q2 院進学(志望)に際して 最も**意識**したことは？

A2 研究結果を出し、「**業績**」をあげることです。
* **日本畜産学会第119回大会で優秀発表賞を受賞!**

➤ Q3 現在の研究の**やりがい**は？

A3 まだ「**誰も知らない**」最先端の研究結果を得る(知る)ことができます。

岡本さんは、現在**日本学術振興会**の特別研究員として在籍しています

「大学院生へのQ&A」

(2) 大学院博士課程前期の西部さんの場合：荻田研究室

➤ Q1 学部時代に 生命科学分野に思い描いたことは？

A1 あらゆる生命現象を、細胞一つ一つの「ミクロ」なレベルまで見たいということです。

➤ Q2 院進学(志望)に際して 最も意識したことは？

A2 2年間で身につけられる「スキル」です。
どれだけレベルアップできるかを意識しました。

➤ Q3 現在の研究のやりがいは？

A3 顕微鏡を用いて「教科書では見たことのない」
画像を見ることができたときです。

植物組織培養の形態形成モデルにおける、蛍光顕微鏡観察です。

「キャリア目線のQ&A」

庄原キャリアセンターでのインタビューより

➤ Q1 学部時代に 生命科学分野に**思い描いた**ことは？

A1 **意思決定力(プレゼン能力のレベル)**を把握する。

➤ Q2 院進学(志望)に際して 最も**意識**したことは？

A2 自分を, 論理的に, 段階を追って話せる・書ける力を常に意識しておく(社会が期待する院生像)。

➤ Q3 現在の研究の**やりがい**は？

A3 「**他者と一緒に**」自分の棚卸をすること=院までの経験で, どう**視野を広げたか**」を他人に語る力。

大学院生の自己研鑽**メリット**

- ✓ ティーチング・アシスタント(以下「TA」): 指導者としてのトレーニングの機会を提供するとともに学部又は大学院教育の充実を図ることを目的として採用する**TAは**、公立大学法人県立広島大学非常勤職員等就業規則の第2条第2項第2号に定める**臨時職員**とする。
- ✓ 研究活動支援等: 大学院生の研究活動に基づく学会発表又は論文発表を行うに当たり、研究意欲の向上や研究活動の活発化を促すことを目的として**研究活動に係る経費の一部を支援**すること。

* 半額支援 5万円／回を上限として、年間2回10万円まで

研究活動支援等の実績

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
TA (採択人数)	38	36	31	31	40	53	68
RA (採択人数)	3	13	5	5	8	7	4
研究活動支援等 (件数)	17	22	30	29	36	31	25

卒業研究等の指導・プロジェクト研究

学部3年生から取り組む卒業研究を積極的にサポートします(TA, RA)
学外プロジェクト研究等に参画する機会もあります(RA)

研究活動支援等

専門の学会に参加し、自ら研究の成果を発表します
また、海外で開催される国際学会に参加する人もいます

その他

英語スキルの醸成をサポートする一環でTOEIC受験補助制度を開始しました

大学院修了後の進路

製薬業界

オリジナル医薬品の創生やバイオ技術開発は国家戦略品
ゲノム／プロテオーム／メタボローム技術による創薬
国内外競争の激化(外資系巨大資本や食品・化粧品・繊維・化学業界の参入)

食品業界

特定保健用食品・健康美容食品開発とアグリバイオの応用

化粧品業界

ゲノム研究とバイオ研究に直結

化学・繊維工業業界

ファインケミカルによる医薬原体合成、バイオ活用による環境関連技術の開発
バイオエタノール・バイオプラスチック生産技術の革新
バイオ診断・タンパク生産技術の開発競争

CRO(開発業務委託機関)業界

医薬品・医療機器開発支援の国際競争化

大学・公的試験研究機関

基礎・応用研究の国際競争化
安全・安心のための高度分析技術の開発

いずれも高度な専門技術・知識ならびに独創性・独自性・先駆性等の能力が必要
大学院修了の技能保有者の活躍の場 (* 職種・給与・待遇の差は生じます)

平成23-29年度修了生の進路(138名)

